

【表紙】

【提出書類】 四半期報告書

【根拠条文】 金融商品取引法第24条の4の7第1項

【提出先】 関東財務局長

【提出日】 2023年2月10日

【四半期会計期間】 第25期第3四半期(自2022年10月1日至2022年12月31日)

【会社名】 太平洋セメント株式会社

【英訳名】 TAIHEIYO CEMENT CORPORATION

【代表者の役職氏名】 代表取締役社長 不死原 正文

【本店の所在の場所】 東京都文京区小石川一丁目1番1号

【電話番号】 03(5801)0260

【事務連絡者氏名】 経理部経理グループリーダー 鈴木 弘

【最寄りの連絡場所】 東京都文京区小石川一丁目1番1号

【電話番号】 03(5801)0260

【事務連絡者氏名】 経理部経理グループリーダー 鈴木 弘

【縦覧に供する場所】 株式会社東京証券取引所
(東京都中央区日本橋兜町2番1号)
証券会員制法人福岡証券取引所
(福岡県福岡市中央区天神二丁目14番2号)

第一部 【企業情報】

第1 【企業の概況】

1 【主要な経営指標等の推移】

回次		第24期 第3四半期 連結累計期間	第25期 第3四半期 連結累計期間	第24期
会計期間		自 2021年4月1日 至 2021年12月31日	自 2022年4月1日 至 2022年12月31日	自 2021年4月1日 至 2022年3月31日
売上高	(百万円)	527,890	600,348	708,201
経常利益	(百万円)	41,701	3,526	50,193
親会社株主に帰属する四半期(当期)純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	(百万円)	29,585	17,665	28,971
四半期包括利益又は包括利益	(百万円)	46,158	36,169	53,115
純資産額	(百万円)	538,281	572,176	544,799
総資産額	(百万円)	1,129,191	1,331,537	1,103,007
1株当たり四半期(当期)純利益又は1株当たり四半期純損失()	(円)	250.30	150.92	245.80
潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益	(円)	-	-	-
自己資本比率	(%)	44.33	40.08	46.29

回次		第24期 第3四半期 連結会計期間	第25期 第3四半期 連結会計期間
会計期間		自 2021年10月1日 至 2021年12月31日	自 2022年10月1日 至 2022年12月31日
1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失()	(円)	86.60	10.34

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 第24期第3四半期連結累計期間及び第24期の潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。また、第25期第3四半期連結累計期間の潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2 【事業の内容】

当第3四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)において営まれている事業の内容に重要な変更はありません。

また、主要な関係会社についても異動はありません。

第2 【事業の状況】

1 【事業等のリスク】

当第3四半期連結累計期間において、当四半期報告書に記載した事業の状況、経理の状況等に関する事項のうち、経営者が連結会社の財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況に重要な影響を与える可能性があると認識している主要なリスクの発生又は前事業年度の有価証券報告書に記載した「事業等のリスク」についての重要な変更はありません。

なお、重要事象等は存在していません。

2 【経営者による財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において判断したものであります。

(1) 財政状態及び経営成績の状況

当第3四半期連結累計期間のわが国経済は、ウィズコロナの中で個人消費や設備投資に持ち直しの動きがみられたものの、ウクライナ情勢の長期化や為替相場の変動による資源価格、食糧価格の高騰等により、先行きが不透明な状況で推移しました。

また、世界経済については、社会経済活動の正常化が進められたことで持ち直しの動きが続いているものの、供給制約による物価上昇、世界的な金融引締めによる景気後退懸念、中国における新型コロナウイルス感染症の感染拡大に伴う景気低迷等により、不確実性の高い状況が続いております。

このような状況の中で、当第3四半期連結累計期間の売上高は6,003億4千8百万円（対前年同期724億5千8百万円増）、営業利益は33億9千2百万円（同362億4千8百万円減）、経常利益は35億2千6百万円（同381億7千5百万円減）、親会社株主に帰属する四半期純損失は176億6千5百万円（前年同期は295億8千5百万円の親会社株主に帰属する四半期純利益）となりました。

セグメント別の経営成績は次のとおりであります。各金額については、セグメント間取引の相殺消去前の数値によっております。

セメント

セメントの国内需要は、民需では都市部再開発工事や物流関連施設新增設の活発化により一定の需要がある一方、官公需については建設現場の慢性的な人手不足や天候不順により、前年に引き続き低調に推移し、全体では2,859万トンと前年同期に比べ1.3%減少しました。その内、輸入品は1万トンと前年同期に比べ0.5%減少しました。また、総輸出数量は665万トンと前年同期に比べ22.3%減少しました。

このような情勢の下、当社グループにおけるセメントの国内販売数量は、受託販売分を含め1,008万トンと前年同期に比べ1.5%減少しました。輸出数量は202万トンと前年同期に比べ33.6%減少しました。また、セメント製造用石炭価格の高止まり等により、厳しいコスト状況が続いております。

米国西海岸のセメント事業は、レディング工場他資産買収等により、販売数量は前年同期を上回りました。中国のセメント事業は、ゼロコロナ政策に伴うロックダウンの影響等により、販売数量が前年同期を下回りました。ベトナムのセメント事業は、諸資材高騰に伴うプロジェクト工事の遅延等により、販売数量は前年同期を下回りました。フィリピンのセメント事業は、ベトナム品に対するアンチダンピング課税による輸入セメントの販売減少等の影響により、販売数量が前年同期を下回りました。

以上の結果、売上高は4,100億1千6百万円（対前年同期632億5百万円増）、営業損失は98億5千4百万円（前年同期は230億6千5百万円の営業利益）となりました。

資源

骨材事業は関東・中部地区を中心に販売が堅調に推移しました。鉱産品事業は鉄鋼向け石灰石の販売数量が減少しました。土壌ソリューション事業は建設発生土受入数量が前年同期を下回りました。また事業全体において、販売価格への転嫁に努めているものの、各種コストアップの影響を受けました。

以上の結果、売上高は624億2百万円（対前年同期45億6千5百万円増）、営業利益は44億9千1百万円（同2億2千万円減）となりました。

環境事業

排脱タンカル及び燃料販売は堅調に推移したものの、石炭灰処理は低調に推移しました。また、バイオマス燃料は国際的な為替変動の影響を受けました。

以上の結果、売上高は591億7千4百万円（対前年同期56億1千9百万円増）、営業利益は44億5千8百万円（同4億6千1百万円減）となりました。

建材・建築土木

A L C（軽量気泡コンクリート）と建築材料の販売は堅調に推移したものの、原材料価格の急激な高騰の影響を受け、また、地盤改良工事が低調に推移した結果、売上高は496億1千4百万円（対前年同期15億3千5百万円増）、営業利益は12億6百万円（同17億6千6百万円減）となりました。

その他

売上高は634億5千1百万円（対前年同期11億7千2百万円減）、営業利益は27億3千7百万円（同15億6千3百万円減）となりました。

財政状態は次のとおりであります。

総資産は前連結会計年度末に比べ2,285億2千9百万円増加して1兆3,315億3千7百万円となりました。流動資産は前連結会計年度末に比べ1,303億3千万円増加して4,708億8千1百万円、固定資産は同981億9千9百万円増加して8,606億5千6百万円となりました。流動資産増加の主な要因は受取手形、売掛金及び契約資産が増加したことによるものであります。固定資産増加の主な要因はその他の有形固定資産が増加したことによるものであります。

負債は前連結会計年度末に比べ2,011億5千1百万円増加して7,593億6千万円となりました。流動負債は前連結会計年度末に比べ1,390億4千1百万円増加して4,488億9百万円、固定負債は同621億9百万円増加して3,105億5千万円となりました。流動負債増加の主な要因は短期借入金が増加したことによるものであります。固定負債増加の主な要因は長期借入金が増加したことによるものであります。有利子負債（短期借入金、コマーシャル・ペーパー、1年内償還予定の社債、社債、長期借入金の合計額）は、前連結会計年度末に比べ1,230億4千8百万円増加して3,936億3千5百万円となりました。

純資産は前連結会計年度末に比べ273億7千7百万円増加して5,721億7千6百万円となりました。主な要因は、為替換算調整勘定が増加したことによるものであります。

(2) 優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題

当第3四半期連結累計期間において、優先的に対処すべき事業上及び財務上の課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(3) 研究開発活動

当第3四半期連結累計期間の研究開発費の総額は4,197百万円であります。

なお、当第3四半期連結累計期間において、研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

3 【経営上の重要な契約等】

当第3四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等は行われておりません。

第3 【提出会社の状況】

1 【株式等の状況】

(1) 【株式の総数等】

【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	197,730,800
計	197,730,800

【発行済株式】

種類	第3四半期会計期間 末現在発行数(株) (2022年12月31日)	提出日現在 発行数(株) (2023年2月10日)	上場金融商品取引所 名又は登録認可金融 商品取引業協会名	内容
普通株式	121,985,078	121,985,078	東京、福岡各証券 取引所(注)	単元株式数は100株でありま す。
計	121,985,078	121,985,078	-	-

(注) 東京証券取引所はプライム市場であります。

(2) 【新株予約権等の状況】

【ストックオプション制度の内容】

該当事項はありません。

【その他の新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4) 【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 (千株)	発行済株式 総数残高 (千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金 増減額 (百万円)	資本準備金 残高 (百万円)
2022年10月1日～ 2022年12月31日	-	121,985	-	86,174	-	42,215

(5) 【大株主の状況】

当四半期会計期間は第3四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(6) 【議決権の状況】

当第3四半期会計期間末日現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（2022年9月30日）に基づく株主名簿による記載をしております。

【発行済株式】

2022年12月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	-	-	-
議決権制限株式(自己株式等)	-	-	-
議決権制限株式(その他)	-	-	-
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 4,587,700	-	-
	(相互保有株式) 普通株式 601,100	-	-
完全議決権株式(その他)	普通株式 116,232,700	1,162,327	-
単元未満株式	普通株式 563,578	-	-
発行済株式総数	121,985,078	-	-
総株主の議決権	-	1,162,327	-

(注) 「完全議決権株式(その他)」欄には、株式会社証券保管振替機構名義の株式が700株(議決権の数7個)含まれております。

【自己株式等】

2022年12月31日現在

所有者の氏名 又は名称	所有者の住所	自己名義 所有株式数 (株)	他人名義 所有株式数 (株)	所有株式数 の合計 (株)	発行済株式 総数に対する 所有株式数 の割合(%)
太平洋セメント(株)	東京都文京区小石川1丁目1番1号	4,587,700		4,587,700	3.76
秩父鉄道(株)	埼玉県熊谷市曙町1丁目1	132,200		132,200	0.10
有隣興業(株)	埼玉県秩父市上宮地町 22-25	168,600		168,600	0.13
日立寒水石(株)	茨城県日立市平和町2丁目 1-1	1,000		1,000	0.00
東海コンクリート工業(株)	三重県いなべ市大安町大井田 2250	8,000		8,000	0.00
豊橋小野田レミコン(株)	愛知県豊橋市下地町新道16	400		400	0.00
浜坂小野田レミコン(株)	兵庫県美方郡新温泉町三谷 157-1	4,400		4,400	0.00
京葉アサノコンクリート(株)	千葉県船橋市日の出2丁目 18-1	3,600		3,600	0.00
秋南アサノコンクリート(株)	秋田県横手市大雄字小林78	600		600	0.00
群馬アサノコンクリート(株)	群馬県太田市大原町39-5	1,200		1,200	0.00
山梨アサノコンクリート(株)	山梨県南アルプス市下今諏訪 1466	1,200		1,200	0.00
福岡生コンクリート(株)	福岡県北九州市八幡西区木屋瀬 4丁目15-4	2,600		2,600	0.00
南国生コンクリート(株)	鹿児島県鹿児島市南栄4丁目7	2,600		2,600	0.00
共和コンクリート工業(株)	北海道札幌市北区北八条西 3丁目28番地	101,800		101,800	0.08
札幌アサノ運輸(株)	北海道札幌市白石区中央2条7 丁目1番地	100		100	0.00
(株)浅野保険代理部	東京都中央区東日本橋2丁目 27-8	9,900		9,900	0.00
(株)エーアンドエーマテリアル	神奈川県横浜市鶴見区鶴見中央 2丁目5-5	5,000		5,000	0.00
小山レミコン(株)	栃木県小山市渋井670	1,000		1,000	0.00
埼玉アサノ生コン(株)	埼玉県さいたま市岩槻区長宮 383	2,400		2,400	0.00
太平洋建設工業(株)	北海道釧路市末広町6丁目1	111,100		111,100	0.09
奥多摩工業(株)	東京都立川市曙町1丁目 18-2		43,400	43,400	0.03
計	-	5,145,400	43,400	5,188,800	4.25

(注) 1. 「自己株式等」の「自己名義所有株式数」、「他人名義所有株式数」及び「所有株式数の合計」の欄に含まれない単元未満株式が489株あります。なお、当該株式は、上表の「発行済株式」の「単元未満株式」の欄に含まれております。

2. 他人名義で所有している理由等

奥多摩工業(株)保有の他人名義の株式は、以下の名義で退職給付信託に拠出されたものであります。

みずほ信託銀行株式会社退職給付信託奥多摩工業口再信託受託者株式会社日本カストディ銀行(東京都中央区晴海1丁目8-12)

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4 【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」(平成19年内閣府令第64号)に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第3四半期連結会計期間(2022年10月1日から2022年12月31日まで)及び第3四半期連結累計期間(2022年4月1日から2022年12月31日まで)に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	60,271	88,923
受取手形、売掛金及び契約資産	143,178	184,795
電子記録債権	23,354	31,075
商品及び製品	34,409	44,016
仕掛品	1,277	2,236
原材料及び貯蔵品	58,502	92,349
その他	19,863	27,854
貸倒引当金	307	371
流動資産合計	340,550	470,881
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	153,705	160,899
機械装置及び運搬具（純額）	170,433	193,141
土地	156,031	168,305
その他（純額）	77,658	116,874
有形固定資産合計	557,829	639,220
無形固定資産		
のれん	80	111
その他	27,485	41,891
無形固定資産合計	27,566	42,003
投資その他の資産		
投資有価証券	118,359	122,795
退職給付に係る資産	22,680	22,545
その他	37,905	35,454
貸倒引当金	1,883	1,363
投資その他の資産合計	177,061	179,432
固定資産合計	762,457	860,656
資産合計	1,103,007	1,331,537

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	79,685	105,628
電子記録債務	8,751	13,977
短期借入金	102,986	159,242
コマーシャル・ペーパー	21,000	53,000
1年内償還予定の社債	-	10,000
未払法人税等	4,198	3,429
賞与引当金	6,246	2,941
その他の引当金	213	319
その他	86,685	100,271
流動負債合計	309,768	448,809
固定負債		
社債	60,000	50,000
長期借入金	86,600	121,393
退職給付に係る負債	22,701	24,805
役員退職慰労引当金	512	490
特別修繕引当金	258	247
製品補償引当金	3,330	4,551
その他の引当金	478	529
資産除去債務	8,703	9,608
その他	65,855	98,924
固定負債合計	248,440	310,550
負債合計	558,208	759,360
純資産の部		
株主資本		
資本金	86,174	86,174
資本剰余金	49,729	49,724
利益剰余金	384,154	358,424
自己株式	13,766	13,734
株主資本合計	506,291	480,589
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	11,737	11,590
繰延ヘッジ損益	6	0
土地再評価差額金	4,897	4,897
為替換算調整勘定	11,322	38,946
退職給付に係る調整累計額	992	2,365
その他の包括利益累計額合計	4,325	53,068
非支配株主持分	34,181	38,518
純資産合計	544,799	572,176
負債純資産合計	1,103,007	1,331,537

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	527,890	600,348
売上原価	393,205	494,006
売上総利益	134,685	106,342
販売費及び一般管理費	95,044	102,949
営業利益	39,641	3,392
営業外収益		
受取利息	344	361
受取配当金	1,159	1,407
持分法による投資利益	2,209	447
その他	2,294	1,925
営業外収益合計	6,008	4,141
営業外費用		
支払利息	1,987	1,921
その他	1,959	2,085
営業外費用合計	3,947	4,007
経常利益	41,701	3,526
特別利益		
固定資産処分益	6,121	642
投資有価証券売却益	441	1,165
その他	191	188
特別利益合計	6,754	1,996
特別損失		
固定資産処分損	2,752	2,367
製品補償費用	-	1,230
その他	3,584	831
特別損失合計	6,336	4,428
税金等調整前四半期純利益	42,120	1,094
法人税等	10,974	17,952
四半期純利益又は四半期純損失()	31,145	16,858
非支配株主に帰属する四半期純利益	1,560	807
親会社株主に帰属する四半期純利益又は親会社株主に帰属する四半期純損失()	29,585	17,665

【四半期連結包括利益計算書】

【第3四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益又は四半期純損失()	31,145	16,858
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	327	36
繰延ヘッジ損益	0	6
為替換算調整勘定	13,854	48,886
退職給付に係る調整額	575	1,362
持分法適用会社に対する持分相当額	1,405	5,546
その他の包括利益合計	15,013	53,027
四半期包括利益	46,158	36,169
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	42,447	31,077
非支配株主に係る四半期包括利益	3,710	5,091

【注記事項】

(継続企業の前提に関する事項)

該当事項はありません。

(連結の範囲又は持分法適用の範囲の変更)

当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
連結の範囲の重要な変更 当第3四半期連結会計期間より、DC千葉資源(株)は重要性が増したため、連結の範囲に含めております。また、第1四半期連結会計期間より、日名運輸(株)は当社の連結子会社である三岐通運(株)を存続会社とする吸収合併により消滅したため、連結の範囲から除外しております。

(会計方針の変更等)

当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
時価の算定に関する会計基準の適用指針の適用 「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過措置に従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することとしております。なお、四半期連結財務諸表に与える影響はありません。 米国財務会計基準審議会会計基準編纂書(ASC)第842号「リース」の適用 米国会計基準を採用している在外の連結子会社において、第1四半期連結会計期間よりASC第842号「リース」を適用しております。これにより原則として、借手におけるすべてのリースを連結貸借対照表に資産及び負債として計上しております。また、適用にあたっては経過措置として認められている累積的影響額を適用開始日に認識する方法を採用しております。 この結果、当第3四半期連結会計期間の連結貸借対照表は、有形固定資産のその他が29,310百万円、流動負債のその他が5,292百万円、固定負債のその他が23,580百万円それぞれ増加しております。 なお、この変更による当第3四半期連結累計期間の損益に与える影響は軽微です。

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
<p>税金費用の計算</p> <p>税金費用については、当第3四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。但し、当該見積実効税率を用いて税金費用を計算すると著しく合理性を欠く結果となる会社については、法定実効税率を使用して計算した金額を計上しております。</p>

(追加情報)

ウクライナ情勢の影響に関する会計上の見積りにおいて、前連結会計年度の有価証券報告書の(重要な会計上の見積り)に記載いたしました仮定について、第2四半期会計期間より直近の情勢を踏まえ見直しを行い、繰延税金資産の回収可能性について慎重に検討を行った結果、繰延税金資産を取り崩しております。

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第3四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第3四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)及びのれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
減価償却費	41,010百万円	46,512百万円
のれんの償却額	40	35

(株主資本等関係)

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2021年6月29日 定時株主総会	普通株式	3,566	30.00	2021年3月31日	2021年6月30日	利益剰余金
2021年11月11日 取締役会	普通株式	4,092	35.00	2021年9月30日	2021年12月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

2021年5月13日開催の取締役会決議に基づき、2021年5月31日付で自己株式5,155,200株の消却を行っております。この消却により、資本剰余金が14,060百万円、利益剰余金が1,969百万円、自己株式が16,030百万円それぞれ減少しております。

2021年8月10日開催の取締役会決議に基づき、自己株式1,981,500株の取得を行っております。この取得により、自己株式が4,999百万円増加しております。

これらの結果などにより、当第3四半期連結会計期間末において資本剰余金が46,533百万円、利益剰余金が385,058百万円、自己株式が15,008百万円となっております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 配当金支払額

決議	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額(円)	基準日	効力発生日	配当の原資
2022年6月29日 定時株主総会	普通株式	4,107	35.00	2022年3月31日	2022年6月30日	利益剰余金
2022年11月10日 取締役会	普通株式	4,108	35.00	2022年9月30日	2022年12月2日	利益剰余金

2. 基準日が当第3四半期連結累計期間に属する配当のうち、配当の効力発生日が当第3四半期連結会計期間の末日後となるもの

該当事項はありません。

3. 株主資本の金額の著しい変動

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	セメント	資源	環境事業	建材・ 建築土木	計				
売上高									
外部顧客への売上高	341,313	43,926	51,205	46,942	483,387	44,502	527,890		527,890
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,497	13,910	2,349	1,136	22,894	20,121	43,016	43,016	
計	346,811	57,837	53,555	48,078	506,282	64,624	570,906	43,016	527,890
セグメント利益	23,065	4,712	4,920	2,972	35,669	4,301	39,970	329	39,641

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業、エンジニアリング事業、情報処理事業、金融事業、運輸・倉庫事業、化学製品事業、スポーツ事業、電力供給事業等を含んでおります。

2. セグメント利益の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	報告セグメント					その他 (注)1	合計	調整額 (注)2	四半期 連結損益 計算書 計上額 (注)3
	セメント	資源	環境事業	建材・ 建築土木	計				
売上高									
外部顧客への売上高	404,746	46,362	55,612	48,941	555,663	44,685	600,348		600,348
セグメント間の内部 売上高又は振替高	5,269	16,040	3,562	672	25,545	18,765	44,311	44,311	
計	410,016	62,402	59,174	49,614	581,208	63,451	644,659	44,311	600,348
セグメント利益又は損失 ()	9,854	4,491	4,458	1,206	302	2,737	3,039	352	3,392

(注) 1. 「その他」の区分は報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、不動産事業、エンジニアリング事業、情報処理事業、金融事業、運輸・倉庫事業、化学製品事業、スポーツ事業、電力供給事業等を含んでおります。

2. セグメント利益又は損失()の調整額は、セグメント間取引消去であります。

3. セグメント利益又は損失()は、四半期連結損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(収益認識関係)

当社グループは、(セグメント情報等)に記載のとおり、「セメント」「資源」「環境事業」「建材・建築土木」の4つを報告セグメントとしております。また、売上高は財又はサービスの種類別及び地域別に分解しております。これらの分解した売上高と各報告セグメントの売上高との関係は以下のとおりであります。なお、売上高には「リース取引に関する会計基準」等に基づく収益が含まれております。

財又はサービスの種類別

(単位：百万円)

		前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
セメント	各種セメント、固化材	211,442	244,886
	生コンクリート	99,212	123,465
	その他	30,658	36,394
	小計	341,313	404,746
資源	骨材、石灰石製品	37,682	41,253
	その他	6,244	5,108
	小計	43,926	46,362
環境事業	廃棄物リサイクル	34,720	33,260
	その他	16,485	22,352
	小計	51,205	55,612
建材・建築土木	コンクリート二次製品、ALC	15,701	17,527
	その他	31,240	31,414
	小計	46,942	48,941
その他		44,502	44,685
合計		527,890	600,348

地域別

前第3四半期連結累計期間(自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)

(単位：百万円)

	セメント	資源	環境事業	建材・ 建築土木	その他	合計
日本	160,375	41,610	50,990	46,735	44,373	344,086
米国	120,537	-	-	1	-	120,537
その他	60,400	2,315	215	205	129	63,266
合計	341,313	43,926	51,205	46,942	44,502	527,890

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

(単位：百万円)

	セメント	資源	環境事業	建材・ 建築土木	その他	合計
日本	175,595	43,405	55,276	48,852	44,404	367,535
米国	164,352	-	-	1	-	164,353
その他	64,799	2,956	335	87	280	68,459
合計	404,746	46,362	55,612	48,941	44,685	600,348

(注) 売上高は顧客の所在地を基礎とし、国又は地域に分類しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失及び算定上の基礎は、次のとおりであります。

前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
1株当たり四半期純利益 250.30円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。	1株当たり四半期純損失 150.92円 なお、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益については、1株当たり四半期純損失であり、潜在株式が存在しないため、記載しておりません。

(注) 1株当たり四半期純利益又は1株当たり四半期純損失の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

項目	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失() (百万円)	29,585	17,665
普通株主に帰属しない金額(百万円)	-	-
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益 又は親会社株主に帰属する四半期純損失() (百万円)	29,585	17,665
普通株式の期中平均株式数(千株)	118,197	117,055

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2 【その他】

第25期(2022年4月1日から2023年3月31日まで)中間配当について、2022年11月10日開催の取締役会において、2022年9月30日の株主名簿に記録された株主に対し、次のとおり中間配当を行うことを決議いたしました。

配当金の総額	4,108百万円
1株当たりの金額	35円00銭
支払請求権の効力発生日及び支払開始日	2022年12月2日

第二部 【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

2023年 2月10日

太平洋セメント株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

東京事務所

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 小林 礼 治

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 上 原 義 弘

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 櫻 田 寛 子

監査人の結論

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている太平洋セメント株式会社の2022年4月1日から2023年3月31日までの連結会計年度の第3四半期連結会計期間（2022年10月1日から2022年12月31日まで）及び第3四半期連結累計期間（2022年4月1日から2022年12月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、太平洋セメント株式会社及び連結子会社の2022年12月31日現在の財政状態及び同日をもって終了する第3四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項が全ての重要な点において認められなかった。

監査人の結論の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。四半期レビューの基準における当監査法人の責任は、「四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社及び連結子会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

四半期連結財務諸表に対する経営者並びに監査役及び監査役会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

四半期連結財務諸表を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき四半期連結財務諸表を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査役及び監査役会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

四半期連結財務諸表の四半期レビューにおける監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した四半期レビューに基づいて、四半期レビュー報告書において独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に従って、四半期レビューの過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対する質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続を実施する。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。
- ・継続企業的前提に関する事項について、重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められると判断した場合には、入手した証拠に基づき、四半期連結財務諸表において、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、適正に表示されていないと信じさせる事項が認められないかどうか結論付ける。また、継続企業的前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、四半期レビュー報告書において四半期連結財務諸表の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する四半期連結財務諸表の注記事項が適切でない場合は、四半期連結財務諸表に対して限定付結論又は否定的結論を表明することが求められている。監査人の結論は、四半期レビュー報告書日までに入手した証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・四半期連結財務諸表の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠していないと信じさせる事項が認められないかどうかとともに、関連する注記事項を含めた四半期連結財務諸表の表示、構成及び内容、並びに四半期連結財務諸表が基礎となる取引や会計事象を適正に表示していないと信じさせる事項が認められないかどうかを評価する。
- ・四半期連結財務諸表に対する結論を表明するために、会社及び連結子会社の財務情報に関する証拠を入手する。監査人は、四半期連結財務諸表の四半期レビューに関する指示、監督及び実施に関して責任がある。監査人は、単独で監査人の結論に対して責任を負う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、計画した四半期レビューの範囲とその実施時期、四半期レビュー上の重要な発見事項について報告を行う。

監査人は、監査役及び監査役会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去又は軽減するためにセーフガードを講じている場合はその内容について報告を行う。

利害関係

会社及び連結子会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1. 上記の四半期レビュー報告書の原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。